

いのち 生命のにぎわいとつながり

No.18

平成22年8月

海辺の生きもの

私たちが住む房総半島は、三方を海に囲まれ、太平洋側は暖流の黒潮と寒流の親潮が出会う豊かな海に面しています。けれども、海岸は、波と風に絶えずさらされ、時には台風による強風や高潮などにより、環境は大きく変わります。

本号では、その厳しい環境に生育するたくましい海岸植物の生態、また、生命のにぎわい調査団現地研修会「磯の生きもの観察会」の報告等を紹介します。

海岸植物

— 海辺でたくましく生きる植物たち —

由良 浩 千葉県生物多様性センター



写真1 崖に生える海岸植物。オレンジ色の花はスカシユリ、奥の白い花はボタンボウフウ。(いすみ市)

一日中海を眺めながら生きている植物たちがいます。

海に面した崖や砂浜等に生えている海岸植物もしくは海浜植物等と呼ばれる一群の植物たちです（写真1, 2）。余生を海の見えるところで送ろうか、などと密かに企んでいる方たちには特にうらやましい存在でしょう。しかし、もし海岸植物が口をきけたなら、きっと好きでこのようなところに生えているわけではないと言われてしまうかもしれません。

雄大な海を眺めるのは気持ちのいいものです。でも、一度海が荒れればそれこそ、強風で飛ばされそうになったり、高潮をかぶったりと生きた心地がしないでしょう。また晴れている日でも油断はできません。嵐以外にも海岸に生えている植物を脅威にさらしているものがあります。それは、「潮風」等と呼ばれる海から漂ってくる霧状の海水です。

海岸では絶えず波が打ち寄せてきます。打ち寄せた波が砕けるときには、微細な海水の粒子が発生します。この粒子は風によって漂い海岸のさまざまなものに付着します。海辺に行くと、特段海水浴をしなくてもなんとなく顔や腕などがべとついたり、停めておいた車の窓が白くなったりしたという経験はないでしょうか。

これらは海水の微粒子が付着したものです。この霧状の海水のことを英語では「ソルト・スプレー」と呼びます。

CONTENTS

	頁
1 海岸植物—海辺でたくましく生きる植物たち—	1
2 千葉県の希少種 キツネ	2
3 生命のにぎわい調査団現地研修会	3
4 国連地球生きもの会議（COP10）	4
5 お知らせ	4



写真2 砂浜に生えるネコノシタ。葉がざらつので「猫の舌」。夏に小さな黄色い花が咲く。(いすみ市)

海岸の植物も当然ソルト・スプレーを浴びます。海岸植物の葉の表面をなめると塩辛さを感じることがあるくらいです。植物にとっては、このソルト・スプレーは有害です。内陸に生えるほとんどの植物は葉に海水が付着すると枯れてしまいます(写真3)。沿岸を強い台風が通過した際にも、強い風によって巻き上げられた海水が内陸の奥地にまで飛び、それを浴びた街路樹などの葉が枯れることがあります。

一方の海岸植物は、ソルト・スプレーを浴びてもなんとか枯れずに生き続けられます。なぜ耐えられるのか、まだ完全には明らかにされていません。ただ、葉の表面を覆うクチクラ層(人間で言えば皮膚にあたる部分)が厚いことや毛を表面に密生させるなどといったようなことで海水が葉の内部にまで入れないようにしていることも関係しているようです。

ソルト・スプレー以外にも、砂浜では砂の移動により埋もれることもあり、飛んでくる砂で傷つくこともあります。風も内陸に比べると常時強く、そのため、背の高い植物はほとんどいません。海岸は、



写真3 ソルト・スプレーを浴びて海側だけ枯れてしまった内陸植物セイタカアワダチソウの群落。(南房総市)

生物が生きていくのには、物理的な環境があまりに厳しく、農家を悩ますどんな強い雑草も海岸にまでは進出できないほどです。

海岸の厳しい環境に耐えることができる、さしもの海岸植物たちも、全国的に進んでしまった埋め立て、護岸、松林の拡大等には抗せず、大幅に生育地を奪われてしまいました。植物群落レッド・データブック(日本自然保護協会ほか 1996)では、危機に瀕している群落の一つとして海岸植物群落が挙げられています。

海岸に行くと、とかく目の前の海に目を奪われがちですが、文字通り海岸に根をはり、たくましくまた可憐に生きている足元の植物たちを時には愛でてみてはいかがでしょうか。

千葉県の希少種 キツネ(イヌ科) ＜重要保護生物＞



キツネ剥製(東金市にて1987年回収)
【中央博物館所蔵標本】

キツネは古くから身近な動物として知られていますが、千葉県では希少種です。現在、中央博物館に収蔵されている千葉県産のキツネの標本は3個体のみ。タヌキは153個体、イタチは51個体あるのと比べて、その数の少なさが目立ちます。では、どうして千葉のキツネは数が少ないのでしょうか? 実は、それがよく分からないのです。キツネの好む里山的な環境は県内に広く残っていますし、近年は捕獲も禁止されています。アンケート調査によれば戦争のあった頃から少ないようですので、かつて獲りすぎたのかもしれませんが。ちなみに隣の茨城県では、キツネは数の多い普通種とされています。

(落合啓二:千葉県立中央博物館)

いのち
生命のにぎわい調査団 現地研修会を開催
「初夏の海辺の生きものを知ろう！磯の生きものを観察しよう！」

柴田るり子 千葉県生物多様性センター



観察開始時に指導員から説明

県民参加型の生物モニタリングを実施している当調査団は、平成20年7月の発足以来4回目の現地研修会を大潮の5月30日（日）に県立中央博物館分館海の博物館の協力を得て、勝浦市の海中公園の磯で開催しました。

この研修会は団員の観察技術（見つけ方＝観察の方法、見分け方＝生きもの同定能力）を高めてもらうことを目的としています。今回のテーマは「初夏の海辺の生きものを知ろう、磯の生きものを観察しよう！」で、51名の参加がありました。

当日の朝は、前夜からの雨がようやくあがり気温の低い曇りがちな天候でしたが、5月の大潮の日であり、潮の干満が大きく、干潮時刻は正午と磯観察には最適な潮汐でした。

海の博物館に集合して、指導員の紹介や観察時の注意事項、海の危険な生きものの注意、磯の生物の探し方を説明してから、早速、博物館前の磯浜に降りて、観察を開始しました。団員は発見した生きものについて、その場で指導員に特徴などを聞きなが



甲羅がなめらかなスベスマンジュウガニ（有毒）

ら、カニやヤドカリ、アメフラシや色鮮やかなウミウシなど様々な生きものを探していました。

家族での磯遊びではカニしか見つけられなかった団員も、研修会では、「磯にはこれほど多くの生きものが生息していることを初めて知った。」とか、「解説を聞きながら生物を観察し、展示や飼育室を見て、千葉の海の多様性がわかった。」との声が寄せられました。



皆で採った生きものを並べて解説

いのち
生命のにぎわい調査団の団員募集！

千葉県内の生物多様性を知るために、身近な生きものの調査報告を行う調査団員を募集しています。（平成22年7月現在団員数532名）

●対象：小学生以上（自然観察、生物調査に関心のある方）

●応募方法：県自然保護課生物多様性センター・にぎわい調査団ホームページから「入団申込書」をダウンロードし、必要事項を記入して郵送（ファックス送付可）

<http://www.bdcchiba.jp/monitor/kibou.pdf>

●受付期間：随時

●問い合わせ・申込書請求先・応募先

〒260-8682

千葉市中央区青葉町955-2 千葉県立中央博物館内
 千葉県生物多様性センター

T E L : 043-265-3601

F A X : 043-265-3615

Email : monitor@bdcchiba.jp

国連地球生きもの会議

生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10)

2010年10月18日～29日名古屋国際会議場



生物多様性条約は、特定の地域・種の保全にとどまらず、包括的な生物多様性の保全や持続可能な利用を目的に、1992年リオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（国連環境開発会議）で気候変動枠組条約とともに世界に向けて公開されました。

日本が議長国を務める今回の会議では、

- ・ 2010年目標に代わる次の目標
- ・ 遺伝資源の取得と利益配分
- ・ 生物多様性の持続可能な利用

をはじめ、ビジネスと生物多様性、都市と生物多様性、科学的基盤の強化など様々な議題について話し合うことが予定されています。

この機会に、多くの方に、生物多様性の大切さを身近に感じていただき、COP10を盛り上げていきましょう。

2010年目標

締約国は現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる。

遺伝資源の取得と利益配分

遺伝資源の利用から得られる利益を、遺伝資源の提供国と利用国で公正かつ衡平に配分する。

生物多様性の持続可能な利用

日本の里地里山に代表されるような自然をうまく利用しながら守り育ててきた智恵と伝統。

このような、生物多様性の持続可能な利用を通して「自然共生社会」を実現するため、わが国は、「SATOYAMAイニシアティブ」を提案します。

お知らせ

● 千葉県レッドデータブック植物・菌類編 (2009年改訂版)

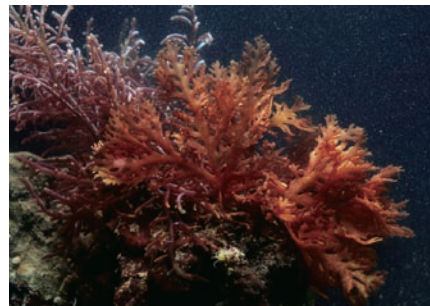
千葉県文書館にて販売中 1冊2,450円

県内の図書館で閲覧が可能です。

ホームページにて公開しています。

<http://www.bdcchiba.jp/endangered/rdb-a/index-p.html>

● 千葉県立中央博物館 企画展 海藻 35億年の旅人 ーそれは生命をつたえるものがたりー



期間：7月3日（土）～9月5日（日）

*期間中、体験イベント、海藻クイズ、展示解説を実施。

・海藻クイズ「君は海藻を知っているか！」

期間中土曜日、日曜日開催

10:00～11:00 13:00～14:00

詳細については、お問い合わせください。

問い合わせ先：千葉県立中央博物館

TEL 043-265-3111

<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

● 千葉県環境研究センター環境学習コーナー企画展 「生物多様性ってなんだ!？」

生物多様性って、なんのこと?

これがわかる企画展です。地球温暖化によって千葉県にも分布を広げた昆虫の標本や、命かがやく生きものの写真を展示します。

期間：平成22年10月29日（金）まで

9:00～16:30（土日祝日休館）

会場：千葉県環境研究センター 環境学習コーナー

市原市岩崎西1-8-8市原臨海公園隣

電話0436-24-5309（駐車場有）

編集・発行

千葉県環境生活部自然保護課 生物多様性戦略推進室 生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043 (265) 3601 FAX 043 (265) 3615

URL : <http://www.bdcchiba.jp/index.html>